

2020年度 取組団体（保育園、幼稚園）における事故・けがの報告事例 及び 予防の取り組み

1 病院の受診が必要だった事故・ケガの報告事例

種別	場所	事故発生状況
転倒	保育室	給食のお皿を片付ける際、上靴がぬげてつまずき、上唇を机にぶつけてしまった。
		シャワーの途中でタオルを取りに室内に走って戻り、足が濡れており止まれず滑って転倒。
		姉と追いかっこになり逃げようとした時に、床に並べていたカルタで滑って後頭部をぶつける。
		本児が歩いていた床に絵本とブロックが重なっており、その上に乗ってしまい滑って後ろ向きに転倒し、右おでこを絵本棚でぶつける。
	廊下	椅子に座って遊んでいた本児が立ち上がり、ぐるっと回って歩いた際に、自分の足がからまり転倒し床で下唇を打撲する。
		朝の会の前、椅子に座っていたが後ろを向いていた。そのままバランスを崩して倒れてしまい他児の椅子にぶつかる。見ると打ち身になっており、傷が出来ていた。
	園庭	園庭でフラフープを回して遊んでいる際に、フラフープにつまづいてしまい前へ転倒。フラフープを掴んでいた為、手が出ず左手が体の下になった状態で倒れた。
転落	保育室	サッシのカギを開けてひらき、網戸を押して落ちる。散歩車の金具であごを打ち擦った。
	園庭	鉄棒で逆上がりをし、手をすべらせ落ちて、右こめかみ・まぶたにすりキズ、おでこに赤み。
		お預りの時間帯の自由あそびの際、一人で遊具に登り体を支えきれず転落。
誤飲・誤嚥	保育室	午睡明けに本児より「ボタンのみこんじゃった」と報告があった。
人・物との接触・衝突	保育室	オムツ交換後ロッカーの前でジャンプをし、棚から出ているロッカーのカゴに尻尾をぶつける。
		ブロック遊びの時に、男児がブロックを持ったまま本児の横を通り、目に当たってしまう。
		寝転んでいるお友達が立ち上がろうとした時に、右手を踏まれるような形になってしまい怪我をした。
	園庭・公園	鉄棒を使って前回りをしている時に、周り終わった後に勢い余って眉間周辺を鉄棒にぶつけてしまった。
		追いかっここの途中、2歳児の女児とぶつかりそうになり避けようとしたが、互いに同じ方向によけてしまい本児の口のまわりと、2歳児女児の頭が衝突。本児が自分の歯で上唇を噛んでしまう。
		戸外での活動中、よそ見をしながら歩いていて、振り返ると同時に目の前にあった木にぶつかる。その際、上唇・歯茎（前歯上）から出血する。
—	長縄を地面に這わせ、波のように揺らし子ども達が跳ぶ遊びをしていた。本児が跳ぼうとしたところ前他児が急に止まったことでぶつかってしまい、その際下唇に切り傷、右上の前歯の歯の周りがうっすらと出血し、歯のぐらつきもみられた。	
	公園にあるトンネル状の遊具で遊んでおり、トンネルから抜けたと思い体を起こした際、頭をトンネルの縁で打った。	
巻込まれる	保育室	テーブル付きイスに座って朝の会に参加している際、体を左側に傾け身を乗りだし、テーブルの付着部分辺りをのぞいていた。2~3cm持ち上げたり降ろしたりしており注意したところ、表情が陰しく、見ると右手薬指をテーブルとイスの付着部分にはさんでいる状態で、自分の右腕でテーブルに体重をかけ押さえていたため、すぐ脱けなかったようだった。
	トイレ	お友達がトイレをしている際、トイレのドアを閉めた所、近くに本児の指があり左手小指をはさんだ。
その他	保育室・教室	はしごを本児が渡っている時、急にジャンプしてしまい梯子の横で前歯の上の左側を打つ。
		午前の活動で制作を行い片付けをしている際に、友だちが余った材料を別の友だちにあげようとした所、本児が材料を取り、怒った友だちが本児を背負い投げするような体勢を取り、左肘をひねった。
		棚にぶら下がったりでんぐり返しをしていて、床に腕を着いた際に肘が脱臼してしまう。
		給食を食べていた時にティッシュをちぎり丸めて、両方の耳の中へ詰める。
	園庭	園庭でサーキットを行っている中、マット運動で前まわりをした際に首の筋を痛めた。

2 各園で実施している事故・ケガ予防の具体的な取組事例

① 児童への安全教育

- ・遊具の使い方について、その都度教えている。
- ・4月の入園式があった週に、園内の危険な場所に連れていき、現場で具体的に指導する。

② 職員による室内、園庭等の安全点検 等

- ・ヒヤリハットの園庭図を作成し、職員室に掲示している。
- ・ヒヤリハットを作成し、ケガが起こった状況を職員間で共有把握し、必要な対策を考えるようにしている。
- ・お散歩マップの作成
- ・遊具チェックリストにおける日常の点検、危険予測を行い、保育環境にて柱の角には保護マットを貼る等、怪我を未然に防ぐ対応を行っている。
- ・毎朝の日常点検(園庭・遊具等)
- ・安全点検後の発見箇所への迅速な対応(職員による修繕、業者による対応)と、修繕済の報告徹底
- ・学期ごとに点検修理をしている。
- ・0・1・2歳児は床で滑って転倒することが多いので、室内では一年中素足にし、0・1・2歳児の保育室は床暖房にしている。
- ・園児が頭を打ちそうな遊具の位置にスポンジをつける。
- ・すべて(園舎内外)の角のある部分に、安全ガードをつけている。
- ・遊ぶ時の職員配置(見守り)
- ・職員の配置人数により遊べる広さを変更する。
- ・安全意识への言葉掛けなど
- ・月に1回(何かあった場合はその都度)のヒヤリハット会議
- ・年度末に事故分析を行い、全員で共有する。
- ・事故やケガが起こった時は、なぜケガが起こったのか状況を確認し、環境や活動内容を改善していく。
- ・子どもがケガをした場合は、必ずその現場で状況を確認しどこに原因があったのか考え、また、記録をし、再発防止会議を行い全職員に周知をする様努める。
- ・怪我が発生した際、会議等で課題点を振り返り、改善策を今後活かしていくよう努めている。

③ 体力・運動能力の向上を目的とした活動

- ・毎朝、0歳児から5歳児がリズム体操を行い体を動かしている。
- ・冬場のランニング・縄跳びの実施
- ・運動機能を高める遊具・園庭の遊び方指導
- ・足腰の弱い子が増えてきているなか、体幹を鍛える動きを取り入れながら、朝日を浴び体操やかけっこ、縄跳びなど取り入れている。
- ・体幹の発達を意識して巧技台で遊んだり、うんていをしたり、縄あそびなど多く取り入れている。
- ・週1回の体育あそびを行う中で、園児に体の使い方等を身につけさせる。